

# 剣道継続動機の変化

## Change of Kendo Motivation

1K06A137

指導教員 主査 岡浩一朗先生

須藤 美聡

副査 矢野尊之先生

### 【目的】

この研究は、剣道を始めた動機、中・高・大進学時の剣道継続動機、卒業後の剣道継続動機からみられる剣道継続動機の変化とその及ぼす影響について知ることを目的としている。

### 【調査方法】

個別インタビューによる調査を行った。インタビューで得たテキストの中から、動機づけとして挙げられた項目を取り出し、意味の繋がりがあられると思われるものをまとめ、見出しをつけた。そしてさらに、そのさまざまな見出しの中でも関連性があると思われるものをまとめて大見出しをつけるという方法をとった。

### 【元となる理論】

本研究は、Deci & Ryan (2000)が提唱する「自己決定理論」を基としている。この理論は、人の動機を外発的動機と内発的動機という概念を中心として説明しており、外発的に動機づけられた行動も、自己の内面化を経て、内発的動機による行動に変化するとしている。この理論を基として、剣道を始めた動機から卒業後までの動機の変化を連続的に分析する。

### 【結果】

まず、剣道を始めた動機に関しては、外発的動機が最も多く、その中でも「親の勧め」という回答が多かった。また、そのように回答した者の多くに「親あるいは兄弟が剣道をしている」と答えている。剣道開始年齢でも、6歳という

回答が最も多く、この年齢はまだ親の管理下におかれていたということも動機に関係するとみられる。

次に、中学・高校の剣道継続動機では、「やめるという選択肢なし」という回答が多く、剣道をしている生活が当たり前のものとなっていったことがわかる。回答全体をみても、剣道開始時の動機に比べて内発的動機にまとめられる回答が非常に多く、その回答も多様、多重となっている。高校の継続動機は、中学校と同じように内発的なものが多く、回答も多様、多重である。高校に関しては、「日本一」「インターハイ出場」などといった具体的な目標が動機として挙げられているのが特徴である。

大学進学時においては、剣道継続動機は高校と同様にかなり自発的であることがわかった。回答項目も多く、小・中・高を通して剣道に関しての価値観が多様化していったことがわかる。また、大学時代の剣道のモチベーションは全員が内発的動機を挙げた。

卒業後には、これまでで最も多くの項目が挙げられた。その中でも、「自分の一部だから」と回答した者が増えているのは、剣道が自分の人格の形成などに深く関わっているということ、大学時代を通して自分自身で認識した者が増えたからであろう。また、「人とのつながり」「人に教える」など、他との関連性を動機として挙げる回答が多くなっている。今後、剣道を通じて求めるものなどが非常に多様であることがわかった。

### 【考察】

剣道開始時には外発的動機で始めた者も、剣道を継続していくことでその継続動機が内発的なものになっていくことがわかった。またそれと同時に、剣道が人格の形成や、アイデンティティ形成に深く関わっているということが今回の調査で明らかとなった。